



骨粗鬆症について



【整形外科部長 二瓶医師】

骨粗鬆症とは、骨密度や骨質の低下により骨折の危険性が高くなる病態です。閉経後の女性に罹患率が高いですが高齢の男性も発症する可能性があります。

また、婦人科疾患や内分泌疾患・慢性腎臓病・薬剤の副作用などから骨粗鬆症を発症することもあります。骨密度の低下や骨質の低下は特に症状を有することは少なく、骨折した時に症状が出現します。

60歳を過ぎると前腕（橈骨遠位端）の骨折が増加し、70歳以降では脊椎（会胸椎・腰椎）の骨折が増加します。椎体については本人が自覚しないうちに骨折している場合もあります。75歳以降では男女ともに大腿骨近位部の骨折が急増してきます。日本国内では大腿骨近位部骨折の患者さんは右肩あがり年々増加傾向でしたが、近年医師・骨粗鬆症マネージャーなどによる薬物治療、啓蒙活動により増加率は緩やかになってきています。大腿骨近位部骨折御や脊椎椎体骨折後の治療介入が積極的に実施されている結果と考えられます。骨折された患者さんのその後の骨粗鬆症治療に適した薬物療法を開始、継続し次の骨折を予防することが大切です。



外来診療を行っておりますと、薬物療法を開始しても自己中断等にて治療が中断されてしまう症例が散見されます。患者さん本人は高齢の方が多いため、家族や周囲の方々の病気に対する理解も重要となります。しかし前腕骨骨折後の治療介入率はまだ高いとは言えず今後の課題と考えられます。他の疾患と同様に早期発見・早期治療が大切になります。仙台市では50歳・60歳で希望者に検診を行っておりますので、受診率の増加により早期発見・予防・治療が現状よりも積極的に行われるようになることで、骨粗鬆症による骨折を罹患する患者さんが減少していけば、ご本人の活動性低下も防ぐことができ、日常生活に制限がでないように充実した生活をおくることが可能となり、家族など周囲で関わる人々への介護等の負担も減少することが期待できます。当院では骨密度検査を用いた「骨コツけんしん」を実施しておりますので興味がありましたら他の検診と合わせて利用してみてもはいかがでしょうか。





「リハビリ」って何だろう？



皆さんは「リハビリ」と聞くと、どんなことを思い浮かべますか？

歩く練習、腕を動かす練習、筋トレ…そんなイメージかもしれません。

「リハビリ」は、正式には「リハビリテーション(Rehabilitation)」といいます。語源はラテン語の「re(再び)」と「habilis(適した)」を組み合わせた言葉で、「再びその人らしく生きる力を取り戻す」という意味が込められています。



当院では、入院中の患者さんに対してのリハビリはもちろん、退院後も通っていただける外来リハビリも行っています。一人ひとりの状態や目標に合わせて、身体的な機能回復だけでなく、気持ちの面にも寄り添いながら支援することを大切にしています。

たとえば「また趣味の畑仕事をしたい」「家の階段を自分で上りたい」…そんな願いを叶えるため、私たち理学療法士・作業療法士がサポートさせていただきます。

「リハビリ＝訓練」だけではなく、「その人らしい生活を取り戻すための支援」だということを、少しでも知っていただけたら嬉しいです。

【リハビリテーション科 理学療法士 千田技師】

「2025 年度 JR 仙台病院地域連携のつどい」を開催しました



7月29日(火)ホテルメトロポリタン仙台におきまして「地域連携のつどい」を開催いたしました。

石岡院長の挨拶に続き、医療講演として消化器内科横山担当部長、薬剤部工藤部長、石岡院長が講演を行いました。

当日は県内の医療機関関係者の方々81名にご出席いただき、盛会裡に終了することができました。

引き続き、地域医療連携の強化・推進に努めてまいりますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

